

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 [使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)]

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)みやま病院増築工事	階数	地上3F、地下1F
建設地	京都府八幡市欽明台北4-2、108、9	構造	RC造
用途地域	準工業地域、第一種中高層住居専	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2024年8月 予定	評価の実施日	2023年3月6日
敷地面積	3,847㎡	作成者	株式会社内藤建築事務所大阪事務所浪江明弘
建築面積	781㎡	確認日	2023年3月24日
延床面積	2,287㎡	確認者	株式会社内藤建築事務所大阪事務所浪江明弘

外観/バース等  
 2024年10月1日現在  
 シェード付が窓が設置してある

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.7</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+</p> <p>0 46 92 138 184 (kg-CO<sub>2</sub>/年・㎡)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能 5</p> <p>Q1 室内環境 3</p> <p>Q3 室外環境(敷地内) 2</p> <p>LR1 エネルギー 4.5</p> <p>LR2 資源・マテリアル 3.7</p> <p>LR3 敷地外環境 3.2</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q: 環境品質 <b>Qのスコア = 2.9</b>		
<p>Q1 室内環境 <b>Q1のスコア = 3.1</b></p> <p>音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境</p>	<p>Q2 サービス性能 <b>Q2のスコア = 3.2</b></p> <p>機能性 耐用性 対応性</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) <b>Q3のスコア = 2.2</b></p> <p>生物環境 まちなみ 地域性+</p>
LR: 環境負荷低減性 <b>LRのスコア = 3.8</b>		
<p>LR1 エネルギー <b>LR1のスコア = 4.5</b></p> <p>建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的</p>	<p>LR2 資源・マテリアル <b>LR2のスコア = 3.7</b></p> <p>水資源 非再生材料の 汚染物質</p>	<p>LR3 敷地外環境 <b>LR3のスコア = 3.2</b></p> <p>地球温暖化 地域環境 周辺環境</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>自然光と自然換気を十分取り込めるよう開口部を設置し、快適な室内環境を確保している。また、省エネ機器を積極的に採用し、環境負荷の低減を図るとともに、建物の維持管理にも配慮した計画としている。</p>		<p>その他</p> <p>特になし</p>
<p><b>Q: 室内環境</b></p> <p>開口部は、採光と自然換気が十分確保できる大きさとし、快適な室内環境となるように配慮した。</p>	<p><b>Q2: サービス性能</b></p> <p>長期に建物を使用するにあたり、維持管理が容易な部材選定及び室の配置計画を行った。</p>	<p><b>Q3: 室外環境(敷地内)</b></p> <p>特になし</p>
<p><b>LR1: エネルギー</b></p> <p>建築物の断熱性能を確保し、LED照明など高効率の設備を採用し、建築物の省エネルギー化に配慮した。</p>	<p><b>LR2: 資源・マテリアル</b></p> <p>節水やリサイクル材など環境負荷の低減に配慮した設備を採用した。</p>	<p><b>LR3: 敷地外環境</b></p> <p>特になし</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される